

十月十四日

昨日は本当に何もしなかった。ゴシック・リヴアイバルも数十ページ読んで、眠ってしまった。しかし、何もしないというのも大変な事なのだ。病院に入院したり、大病をした事が無いので、何もしていないと言ったのが実感として解らないのだが、こういう事なんだの片鱗を感じる位、何もしなかった。何もしていないというのは決して楽な事ではない。何か積らぬ事でもやっているというの不安感、中途半端な満足感と比較すれば、何もしい事の不安と対面しながら、何もしいというのは難しい。こういう空間に宗教的観念は侵入するのか。

七時半頃起床。今日はチリからの院生が来室する。ブラジルからの院生も決まりそうなので、研究室の大半は外国人という考えでいた通りの事になってきた。上手にオーガナイズしなければ、霧散してしまうのもすでに視えている。でも、のんびりやろう。

京王線電車の中で日本フィンランド・デザイン協会のプロジェクトに関して良いアイデアが浮かぶ。栄久庵さんと相談してみる。

十時過研究室。十一時チリ人アーキテクト、アベル・エラソ来室。すでにサンチャゴに小さなオフィスを持っている若い建築家である。三年間石山研に文部科学省委託学生として学ぶことになっている。フィンランドのプロジェクトに参加させるつもり。昼食後修士論文ゼミ。白井総長より電話あり。近々会う事になった。難波先生より電話、技術と歴史の会。十八時入江主任。十九時過

世田谷村書庫打ち合わせ。二十一時前、研究室発。今夜は夜通し室内原稿書く予定。

十月十五日

朝七時起床。昨日書き切れなかった原稿書く。原宿を書く積りが、思いがけぬ方向へ内容は行ってしまった。十時半研究室。十一時過機械工学科山川教授と相談。沖縄プロジェクトに関して。機械学科の先生に私の考えをプレゼンテーションすることを求められた。十三時半室内原稿修了。原宿通りについて。枚数が足りない。重いテーマに取り組んだ感あり。しかし、原宿のブランド・ビルの数々が新しい神社建築だというのは、我ながら当たっていると自己満足にひたる。十五時、アベル、デービッド、蔡、光嶋に研究室内でインターナショナルなチームを幾つか作るよう指示。十七時十勝プロジェクト。柴原と。難波先生との会は一つは二ヶ月に一度位のペースで、共通部品の開発とサブコン・オーガナイズのみーティングと言ったのはどうか。平凡だな。二十一時過京王線桜上水。世田谷村帰途。ヴェネチアには行かねばならんだろう。J・グライター一人をヴェネチアの島送りにしておくわけにはいかない。十一月のヴェネチアは良いだろう。冬のヴェネチアのもっともらしい神秘もなく、淡々とした静けさの中に在るにちがいない。

十月十六日

朝は少しばかりゆっくりした。十時四十五分発。十二時人事小委員会。十三時教室会議。十五時教授会。初めて二時間弱全時間出席してみた。終って、入江主任と少しばかり打合わせ。都市計画の佐藤滋教授と二〇時待ち合わせ、近くのソバ屋で飲む。二十

二時修了。世田谷村に帰る。二十三時。気がついてみれば連日、飲んでいるナ。気をつけよう。栄久庵憲司さん無事退院。少々働き過ぎだ彼は。李祖原、明日より上海。同済大学副学長と相談して、すべてOKとの事。明日から上海Gスタジオに力を尽さねばならぬ。先ず学内告知から。